

トルコ南部の巨大地震の発生からおよそ1カ月たちました。確認された被害者はトルコ・シリア両国で5万人を超える大惨事となりました。震源に近く最大の被害が出ているカフラマンマラシュは、100万を超える人口を抱える大都市。そこが廃墟となっているわけですから、今後も被害がどこまで膨れ上がるのか想像できません。夜間氷点下となる瓦礫に埋もれた町、今なお行方不明となっている人々、難を逃れた被災者、危険を顧みず必死に救援活動を行っている方々、本当に胸が痛みます。トルコに飛んでいけない自分に何かができるわけでもありませんが、少なくとも、被害地を思い自分の日常から見つめ直さなければと考えます。



「にこぽか」の活動



毎月3日は「にこぽかの日」です。人権啓発そしていじめゼロの学校をめざして、主に朝の時間を利用して様々な取組をしています。下は、2月の「にこぽかの日」に全校児童に紹介した話の概要です。

「ピンクシャツデー」という日があることを知っていますか。2月の最終水曜日です。いじめ反対運動で、実話から誕生しました。ピンク色のシャツを着たりピンク色のものを身につけたりすることで「いじめ反対」の意思表示をする日です。「身なり、見た目、考え方が違うのは当たり前。それを自然に受け止めよう」「身の回りにあるいじめを絶対に見逃さなようにしよう」

誰でも参加することのできる、シンプルなポジティブキャンペーンです。現在は約180の国や地域に広がり世界的キャンペーンの一つとなっています。今年は2月23日(祝)。2月22日に、みなさんもピンク色のものを身に付けて登校してみたらどうかな。

2月22日の朝、子どもたちも先生たちも、大勢がピンクを身に付けたり持参したりしていました。この日「**ピンク**シャツデー」を覚えていたんですね。上着、シャツ、靴下、リボン、マスク、ハンカチ……。子どもたちの中には、十分意味が分かっていない子もいたでしょう。しかし、「きれいな色のシャツだね」「かわいい靴下だね」「よく似合うよ」明るい声と笑顔で、そうやって声をかけたりかけられたり……。これだけで気持ちが晴れやかになり心が温くなりました。



以下、「**日本ピンクシャツデー公式サイト**」からの抜粋で紹介します。

2007年、カナダのハイスクールでの出来事です。9年生（日本の中学3年生）の男子生徒が**ピンク**色のポロシャツを着て登校したことをきっかけに、ホモセクシャルだとからかわれ暴行を受け、たえきれずに帰宅してしまいました。それを聞いた上級生12年生（高校3年生）の男子生徒2人。

「いじめなんて、もう、うんざいだ！」「アクションを起こそう！」

そう思った2人は、その日の放課後、ディスカウントストアで75枚の**ピンク**色のシャツを買いこみました。その夜、メール等を通じてクラスメートたちに呼びかけました。「明日、一緒に学校で**ピンク**シャツを着よう」と。

翌朝、校門で配りはじめようとした2人の目に映った光景・・・それは**ピンク**シャツを着た生徒たちが次々と登校してくる姿でした。**ピンク**シャツが用意できなかった生徒たちは、リストバンドやリボンなど、**ピンク**色の小物を身につけて登校してきました。頭から爪先まで、全身に**ピンク**色をまとった生徒もいました。2人の意思は一夜のうちに広まっていたのです。2人が呼びかけた人数より遥かに多く、数百人もの生徒たちが**ピンク**シャツや**ピンク**色のものを身につけ登校してきたことで、その日、学校中が**ピンク**色に染まりました。**いじめに対して、生徒たち自身が、言葉や暴力ではなく行動で意思表示をしようと立ち上がったのです。**いじめられた生徒は、**ピンク**色を身につけた生徒たちであられる学校の様子を見て、肩の荷がおりたような安堵の表情を浮かべていたそうです。以来、その学校でいじめを聞くことはなくなりました。

この行動が地元メディアで取り上げられると、瞬く間にカナダ全土へと広がり、アメリカのTV番組やスペイン最大の新聞でも紹介されるなどして、世界へと広がっていきました。メディアで彼らのことが紹介された翌日には、アメリカ、イギリス、ノルウェー、スイスから彼らの元へ多数の賞賛や感謝を伝えるメールが届いたといい、大きな反響が伺えます。この行動がきっかけとなり、現在、カナダでは毎年2月最終水曜を**ピンク**シャツデーとし、この日、学校・企業・個人を含めた賛同者が**ピンク**シャツを着て「**いじめ反対**」のメッセージを送っています。

